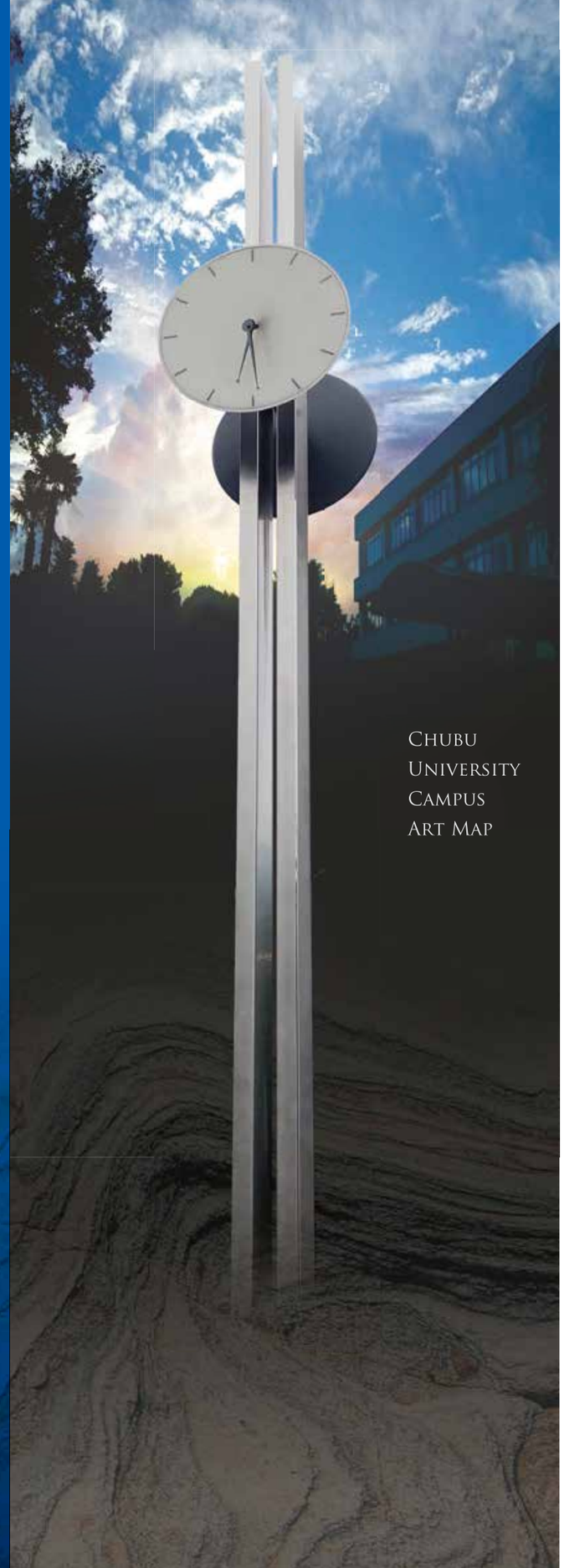
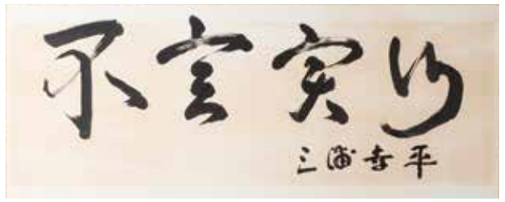
中部大学



CHUBU UNIVERSITY CAMPUS ART MAP

中部大学
キャンパス・アートマップ

建学の精神



《不言実行》三浦幸平、書、1号館

建物と緑の共生するキャンパス

中部大学は、1962(昭和37)年に、春日井の地に中部工業短期大学を、1964(昭和39)年に中部工業大学を開学して以来、キャンパス全体を緑と建築群が融合する学びの景観を作り続けている。

およそ43万㎡におよぶ敷地には、正門から続く並木坂の頂上に設置した時計塔を起点に、キャンパス中央に南北にのびるメーンロードを軸にし、東西各所に芝生の広場や池泉を配している。自然地形と自生の植栽をできるだけ活かし、建築と自然との共生を試みるなかで、正門西区域に木立のなかの散策路(通称バードロード)、図書館の南面と北面の各区域に開放的な芝生の広場を設け、構内のオープンスペースに彫刻や絵画等の美術作品を配することで彩りを添え、憩いの空間を作っている。

《創立者胸像(三浦幸平先生)》清水多嘉示
彫刻、バードロード周辺

創立者像を囲む空間では、「楷(かい)の木」が枝を伸ばす(2005年植樹)。中国の孔子廟の樹にちなみ、日本では「学問の木」といわれることから、学園の成長に対する祈りが込められている。

CONTENTS

中部大学キャンパス アート作品配置図 …… 03
文化施設(三浦幸平記念室／工法庵) …… 03 ～ 04
大学の歴史を彩る作家たち …… 05 ～ 06
建築と庭、池泉と広場 …… 07 ～ 08
彫刻と絵画のある空間 …… 09 ～ 11
学部関連エリアのアート
工学部 …… 12
応用生物学部 …… 13
生命健康科学部 …… 14
経営情報学部 …… 15
国際関係学部 …… 16
人文学部 …… 17
現代教育学部 …… 18
キャンパスの四季 …… 19 ～ 20

中部大学全景(春日井キャンパス)

中部大学校歌

作詞　佐藤一英
作曲　大中寅二

一、
桃園の夢　新たにて
春日井の丘　白亜あり
命の泉　平和の火
時空紫電の　頭脳充つ
消えぬ若さに照る学舎
かがやく　われら中部大

二、
世界あまねく待ちのぞむ
思想と技術　おさめたり
雪と火華と　花々と
見事にみのれもるるなく
古人のねがい　われら負う
柱ぞ　われら中部大

三、
万年の生　いくる甲斐
たぎる血潮に立つ時点
かえらざる日を身に沁めて
深きいぶきに知恵を識る
光りみなぎる　われら学舎
ちからぞ　われら中部大

表紙デザイン：黎明(れいめい)の刻

中部大学キャンパス アート作品配置図

凡　例

- オープンスペース
- 工学部
- 応用生物学部
- 生命健康科学部
- 経営情報学部
- 国際関係学部
- 人文学部
- 現代教育学部

（2019年現在）

中部大学キャンパスのアート作品

※50音順・オープンスペースを主とした建築、彫刻、絵画作品の一部抜粋
（＊ 後述ページに写真掲載のある作品）

泉 茂
06《無題》(油彩・アクリル)*
16《作品》アクリル樹脂
22《作品》版画

市橋 太郎(油彩)
19《2001年、秋》*
19《Diversity Windows.6》版画
20《顔と横切る赤》*
30《Yellow Paintings》*
30《通常の参加》

井戸 三郎
04《スペイン風景》油彩

伊藤 平左ェ門 他工学部研究室(建築教育)
12《洞雲亭》書院建築(移築復元)*
12《工法庵》茶室建築(復元)*
12《燗柯軒》茶席建築設計*

岡田 憲久(作庭)
04《みなもの庭》(2号館中庭)*
12《工法庵・洞雲亭庭園》*
15《花鏡の庭》(25号館中庭)*

片岡 球子
01《芦ノ湖の富士》(版画)*

金子 亨
15《大地の詩》(油彩・アクリル)*

川原 竜三郎(彫刻)
01《創立者胸像浮彫》*
01《宇宙への響き》*
01《太陽の恵》
11《ARMONIA》*
19《太陽の詩》[野外]*
22《アドリアの海》
29《いのちの風》[野外]*
30《アドリアの実り》*

北田 孝之
28《車輪石のような形》(彫刻)*

黒川 節子(油彩)
06《はにわ》*
25《ランプと貝と》*

小松 義雄(油彩)
22《人物B》*
18《作品“無”》

佐藤 朝子
14《遥か…》(油彩)

下川 辰彦(日本画)
12《月下美人》*
23《西安追想―平和への巡幸》*
25《宙(そら)》*

清水 多嘉示(彫刻)
02《創立者胸像(三浦幸平先生)》*
07《メディタッション》*
17《躍動》[野外]*
22《輝き》*

株式会社第一工房
(代表 高橋 靖一)(建築設計)
02《時計塔》
01《メモリアルホール 天井》*
06《7号館 階段》*
21《野外ステージ》*
22《図書館 螺旋階段・天窓》*
27《21号館とキャノピー》*
28《22号館(大講堂)・中庭・階段》*

新美 哲也
19《XXX.COS.NAO.04》(油彩)*

平岡 靖弘
13《風の棲家》(油彩)*

堀江 良一
29《弧のある風景 81-4》(版画)*

藤井 外喜雄
03《シャトー シャンティリー》油彩

松田 環
27《窓辺の静物》(油彩)

松村 公太(日本画)
23《菩薩と天人たち(現状想定再現模写)》*
23《菩薩と天人たち(現状想定復元模写)》

宮島 真理子
14《マリオネット》(油彩)*

藪野 正雄
04《椅子による》(油彩)*

藪野 正樹(油彩)
05《Interface》
22《祈りの丘》

山本 眞輔(彫刻)
04《共生―未来へ》
24《心の旅―祈りの道》*

山本 眞希
22《月あかりの刻》(日本画)

渡邉 美喜
27《白い森》(日本画)*

文化施設（三浦幸平記念室／工法庵）

三浦幸平記念室（メモリアルホール）

1991(平成3)年に竣工したメモリアルホールのラウンジにある学園創立者を記念する資料室。名古屋市中区千早町で開校した名古屋第一工学校(1938[昭和13]年認可)を始まりとする学園の歴史として、創立者肖像彫刻他、創立にちなむ思い出の品々を紹介している。大ホールの八角形の天井装飾も圧巻である。式典他、各種の企画発表会や、内外より研究者や芸術家を招く講演会、音楽会や演劇会など文化交流の場となっている。

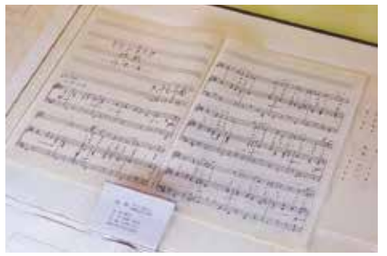
MAP 01

三浦幸平記念室内部

《創立者胸像浮彫》、川原竜三郎

《中部大学校章原画(制作用写し)》
(複写)、(原画デザイン：亀倉雄策)

《中部大学校歌(自筆)（部分)》(書)
佐藤一英


《中部大学校歌楽譜(自筆)》、作曲 大中寅二・作詞 佐藤一英

工法庵（利休茶室の復元建築）

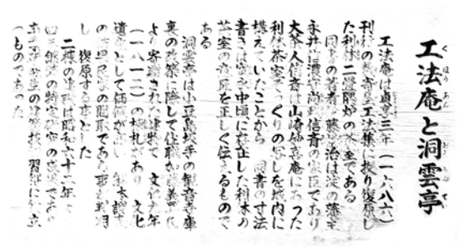
1986(昭和61)年から1990(平成2)年にかけて原寸図を起こし、各工事に至るまで本学工学部教員(伊藤平左ェ門名誉教授当時他)と卒業生らが協力し制作した利休茶室の復元建築。利休の『数奇屋工法集』に記されていた「妙喜庵利休囲」の寸法を忠実に復元し、利休の建築意匠を目にすることができる貴重な資料でもある。

工法庵は、香川県小豆島の洞雲山観音寺の庫裏(江戸時代の棟札)を移築して建てた書院建築「洞雲亭(とううんてい)」に付随している。また同庭園内には、東京の靖国神社の古木を再利用して建てた小茶亭「燗柯軒(らんかけん)」(1995年)がある(建築設計：伊藤平左ェ門)。自然地形を利用した池泉式の深山の雰囲気漂う日本庭園を含め、広大な面積の緑地帯をキャンパスの中央部に整備し、本学の迎賓施設として活用するとともに、学生が日本文化を学ぶ場となっている。

MAP 12

工法庵内部

立礼式の茶席「燗柯軒」



洞雲亭(書院)露地門付近の建物由来表記

洞雲亭の書院建築と庭園

大学の歴史を彩る作家たち

彫刻家
清水 多嘉示
（1897～1981）

フランスでブールデルに師事し彫刻を学ぶ。ジャコメッティ、藤田嗣治、イサム・ノグチ、小山敬三といった画家や彫刻家たちと交遊した。芸術と融合した精神的に豊かな暮らしが人間性を深めるという芸術教育の実践を探究し、多くの若者の育成に関わった清水の表現は生命感溢れ、東京国立近代美術館、大原美術館（岡山県）他、全国多数の公共施設の開放空間に設置され日常風景の傍らで愛され続けている。本学では、大学開学29周年記念に、創立者三浦幸平が交流のなかでブロンズ胸像制作を依頼したことを機に、キャンパス各所に作品を設置し憩いの場を作り出している。写真の作品は、螺旋形の階段と吹き抜け空間の天井に大きな天窓があり、階段下中央の彫像に陽光がスポットライトのように降り注ぐ空間を作っている。

MAP 22

1

2

①《輝き》清水多嘉示、ブロンズ、中部大学附属三浦記念図書館
②《図書館螺旋階段・天窓》、建築設計：株式会社第一工房（代表　高橋靖一）

日本画家
下川 辰彦
（1946～）

片岡球子に師事し日本美術院を基盤に東西各国に取材した古典絵画研究をもとに現代作品の制作に挑戦している。作品は、外務省、明治記念館、西堀榮三郎記念館、愛知県立芸術大学他に所蔵されている。本学では、所蔵作品7点（非公開を含む）のうち、3点を一般が鑑賞できる場所に設置している。写真の作品は、一見静謐な印象だが、国宝法隆寺金堂壁画の模写事業への参加を機に古画の人体表現と彩色法を研究し見出した、日本画の顔料特有の透明感のある彩色表現の色層を複合的に構成して画面を作り上げる緻密な技法のもとで成り立っている。

MAP 23

《西安追想―平和への巡幸》下川辰彦、和紙、顔料、墨、中部大学民族資料博物館

MAP 04

洋画家
薮野 正雄
（1907～1990）

大西良三第三代理事長の思い出の作品の一つ。赤みを帯びた茶褐色の肌が印象的な女性像を描いた作品。この作品の制作2年前の1951年に学校法人三浦学園（現 学校法人中部大学）が設立した。戦後の復興に立ち上がっていく時期に重なり、葛藤する人間像は大地に生きる潜在的な生命力の可能性を想像させる心の糧ともなった。

《椅子による》藪野正雄、油彩
2号館職員ラウンジ

彫刻家
川原 竜三郎
（1958～2012）

圓鍔勝三（えんつば かつぞう）、ペリクレ・ファッツィーニに師事し彫刻を学ぶ。ジャコモ・マンズーや、エミリオ・グレコらとも交遊した。特にイタリアで蜜蝋彫刻を研究し、蠟型鋳造技法を究め、なめらかな肌感を表現する魅力を生み出した。地中海世界をイメージさせる女性の優美さ、太陽や宇宙といった生命の喜びを漂わせる存在感を放つ。作品は、宮崎県立総合博物館、長野県美ヶ原高原美術館、富山県福光美術館他、東京芸術劇場や東京会館等に多数設置されている。写真は、吹き抜けの天井と、壁のガラス窓から季節を感じる空間に作品を設置している様子である。彫刻の傍らには、アメリカで活動する美術家（市橋太郎[1940～]）による平面作品がある。彫刻と絵画のコラボレーションによって、明るいリズムで調和された空間が生まれている。本学ではおよそ5点をオープンスペースに設置している。その他、1号館1階のアートギャラリーにて市橋太郎作品を複数展示している（P11参照）

MAP 30

リサーチセンター内部

1

2

①《アドリアの実り》川原竜三郎、ブロンズ、リサーチセンター
②《Yellow Paintings》市橋太郎、油彩、リサーチセンター

建築と庭、池泉と広場

MAP 15

《花鏡の庭》(25号館中庭)
作庭：岡田憲久

芝生の広場に、直径7mの円形の池を設け、周囲に植生を配する。池には水鉢からわずかに水を落とす仕組みで、池底に敷かれた玉石と水面の波紋が、光と影、風によるリズムをひきたたせて感じさせる。

MAP 04

《みなもの庭》(2号館中庭)
作庭：岡田憲久

この場所は、大学開学当初の水源地で、水質を観察する場であるとともに大学開学30周年に現在の中庭に改修。大学発祥と水源の歴史を記念する場所としての意から庭の名称がつけられた。太陽と月をテーマにした石組みと水路を配し植栽を構成。無機的な建築空間に季節感を添えている。

MAP 12

①工法庵

②洞雲亭からの眺め

③書院建築(洞雲亭)と庭園

④工法庵・洞雲亭庭園の滝口の景

移築・復元：伊藤平左エ門 他工学部研究室
作庭：岡田憲久

MAP 26

ロタンダのある広場

ロタンダは、大学開学30周年記念(1994年)に姉妹校オハイオ大学(アメリカ)より寄贈された尖塔クーポラの建築レプリカ。欅並木が囲う芝生の広場に建ち、四季折々の風景を作る。八角形のコラムの上にドーム型の屋根が載る。

MAP 22

図書館 天窓
建築設計：株式会社第一工房
(代表　高橋靚一)

MAP 01

メモリアルホール天井
建築設計：株式会社第一工房
(代表　高橋靚一)

MAP 21

古代建築遺跡から着想し、円形の池に浮かぶように舞台を置き、奥の木立を背景に、舞台の背後をコンクリート打放し仕上げの列柱と錆色の鉄板が囲い込むように立つ。手前に広がる芝生の広場が観客の特等席となる。

野外ステージ(水の舞台)
建築設計：株式会社第一工房(代表　高橋靚一)

MAP 01

もとの自然林をそのまま手を入れずに残している。

散策路・バードロード
(遊歩道)

彫刻と絵画のある空間

MAP 01

《芦ノ湖の富士》
片岡球子、版画
メモリアルホール

片岡の「めでたき富士」シリーズは没後今なお人気を博す。形態を大胆に抽象的なかたちに置き換える高度な造形感覚によって裏打ちされた作品は、日本の伝統文様から発想を得て醸成されたといわれる。生命力の原風景を連想させ印象深い。

MAP 22

《人物B》小松義雄、油彩
中部大学附属三浦記念図書館

MAP 12

《月下美人》下川辰彦
日本画、一曲半双屏風
洞雲亭

MAP 01

《宇宙への響き》
川原竜三郎、ブロンズ
メモリアルホール

MAP 19 (野外)

《太陽の詩》川原竜三郎
ブロンズ、10号館前 野外

MAP 29 (野外)

《いのちの風(詳細)》川原竜三郎、ブロンズ
総合情報センター前 野外

MAP 07

キャンバスプラザ内

《メディタッション》清水多嘉示
ブロンズ、キャンバスプラザ

学生の往来する吹き抜け空間中央にある。ガラス越しのため、やわらげられた陽光を受けておだやかな存在感を漂わせる。

MAP 29

《弧のある風景　81-4》堀江良一、版画
総合情報センター

MAP 20

《顔と横切る赤》市橋太郎、油彩、体育・文化センター

工学部

MAP 23

世界文化遺産に登録されているアフガニスタンのバーミヤーン渓谷の古代遺跡群のうち、石窟寺院の今は無き西大仏内壁画の一部模写絵画。復元模写と並列して展示。

《菩薩と天人たち(現状想定再現模写)》
松村公太、日本画、中部大学民族資料博物館

中部大学民族資料博物館
常設展示室(地域研究エリア)

MAP 08

大学開学当初からのキャンパス整備の歴史を航空写真と解説でたどるパネルを常設。

不言実行館ラウンジ風景

MAP 08

季節に応じて平面作品(布製)を壁面展示
(制作 山本三千代)

不言実行館ラウンジ通路

MAP 03

アートギャラリー風景(1号館1階)(市橋太郎作品を複数展示)

工学部は、キャンパスの東地域に位置している。時計塔の東北方向にあるキャンパスプラザ前は、噴水のある池泉と欅の木々が並ぶロータリーがあり開放的な空間となっている。ロータリーを北へ抜けて進むと工学部棟の7号館をはじめとする建物群が並ぶ。

MAP 06

7号館ラウンジ風景

講義棟や実験棟などの複数のコンクリートビル群が集まる一隅に、白色を基調とした学部ラウンジがある。環境に配慮する観点から室内壁面に植物を植えこむグリーンパネルとグリーンポットを配し、限定空間でありながら明るく訪れる人を迎える場所としている。

左は北欧原産の天然素材の苔「スカンディアモス」をデザインパネルに植え込み、別材の吸音パネルと組み合わせたグリーンパネル。臭いの吸収、生活騒音や湿度調節に有効な特徴があり、機能性とデザインの融合を試みている。
右は多肉植物のサボテンを壁面の円形ポットに植え込み、視覚的なアクセントとしたグリーンポット。

MAP 06

7号館階段
建築設計:
株式会社第一工房
(代表　高橋靖一)

「馬の蹄(ひづめ)」をイメージして曲線をかたどるデザインの階段。
(材は2020年改修)

MAP 09

「源氏物語の住まい」展示。授業期間の平日に無料開放。工学部池浩三教授(当時)と学生による制作模型を展示。「源氏物語」の世界を考証し、平安時代の寝殿造建築と庭園、家具や楽器、調度品など室礼装飾を細部に至るまで正確に縮小し見事に再現している。また、染色家の吉岡幸雄による「源氏物語」の登場人物のかさねの色目を再現した染色資料をあわせて展示。

①寝殿造建築、および
庭園の模型(一部詳細)
②建築資料製作室(19号館)

1

2

応用生物学部

応用生物学部は、キャンパスの中央部北寄りの地域に位置している。時計塔から右方のキャンパスプラザ前のロータリーをまわり、北へ直進すると30号館南面前の階段にいたる。高層建築と実験棟が近接するエリアだが一隅で書院庭園と潜龍池に接する。

MAP 11

《ARMONIA》
川原竜三郎、ブロンズ
30号館

オーケストラの演奏風景が群像で表されている。30号館エントランス壁面に位置。エントランスの照明を控えめにし、建物西側のガラスからの採光によって通路の存在を示す効果がある。浮彫作品もこの静かな空間に溶け込んでいる。

30号館1階エントランス風景

MAP 11

30号館ラウンジからの池の眺め

MAP 10 11

《潜龍池(せんりゅうち)と石碑》

龍は、志を養い、徳を磨く間は地中深く潜み、やがて大志を抱き「飛龍」となって天を自在に飛翔し活躍する神獣と考えられている。修学に努めた中部大学の学生が、やがて社会に貢献できる人材に成長することを願い、学園創立80周年を記念して2019年に飯吉厚夫理事長が池の呼称を名付け、石碑を設置した。(碑銘「潜龍池」の揮毫：原田凍谷)

応用生物学部では、講義棟・実験棟の一隅に、実験に身を捧げた動物の慰霊碑「捨身(しゃしん)の碑」を2003年に設置した。常に生命を尊ぶ研究姿勢を抱き続けることを学部設立当初からの信条としている。(碑銘「捨身之碑」の揮毫：学長 飯吉厚夫当時・現理事長)

MAP 11

《捨身の碑》
31号館北

生命健康科学部

生命健康科学部は、キャンパスの北地域に位置している。メーンロードを北へ直進し、洞雲亭(書院)の入口付近までゆるやかな坂道を進むと、前方に聳え立つ50号館や実験棟の建築群が目に入ってくる。

MAP 13

1

2

建物の周囲に水景を配し建物前を開放的な空間にし、周辺の緑化景観を借景として取り入れている。

①50号館ラウンジ風景
②50号館ラウンジからの眺め

《風の棲家》平岡靖弘、油彩

光をテーマに人間本来の実在を問いかける四部作の大作。横に長く、南西がガラス張りとなっている50号館1階のラウンジの特徴に合わせて位置し、静かな空間を作りあげている。

《風の棲家》「風の雫(詳細)」

MAP 14

51号館エントランスホール壁面に位置。明るい色調とモチーフが憩いの場の点景となっている。

《マリオネット》
宮島真理子、油彩

経営情報学部

経営情報学部は、キャンパスの西南地域に位置している。時計塔から左方(西)の道路を直進すると、右手の欅並木に囲まれた芝生の広場を過ぎるところに、ラウンジのある21号館が見えてくる。もう一つの経路として、正門付近のメモリアルホール北の、西方向へのびる散策路(バードロード)から至る緑を楽しむ小道もある。

MAP 27 28

22号館(大講堂)・中庭・階段
建築設計：株式会社第一工房(代表　高橋靚一)

MAP 27

21号館階段
建築設計：株式会社第一工房
(代表　高橋靚一)

MAP 27

《白い森》渡邉美喜、日本画

透明感ある寒色系の色彩で幻想的な古城の世界を表現。ラウンジ入口に位置。点景となり室内外の空間をつなぐ。

MAP 28

《車輪石のような形》北田孝之、彫刻

古墳時代の装身具の形態に着想。22号館階段通路に位置。モチーフの円形が直線主体のコンクリートの室内空間の点景となっている。

MAP 27 28

21号館とキャノピー、建築設計：株式会社第一工房(代表　高橋靚一)

21号館と22号館は、第19回中部建築賞を受賞(1987年)。階段状の中庭では陽光を感じながらベンチで憩うことのできる空間となっている。

国際関係学部

国際関係学部は、キャンパスの中央地域に面して位置している。南北にのびるメーンロードのちょうど中間地点で、12階建の20号館がそびえ立つ。19号館、13号館、一帯の赤レンガを敷きつめたキャンパスプラザとともに、第9回中部建築賞を受賞している(1977年)。

MAP 10

20号館ラウンジからの眺め

北面に池の景観、南面にレンガ敷きの広場が広がり、戸外の景観を部屋の内部にいながらにして感じることができる。

MAP 19

薄紫とグレーを主調にした抽象表現。10号館南通路に位置。室内外の空間をつなぐ存在。

《XXX.COS.NAO.04》
新美晢也、油彩、10号館

MAP 19

《2001年、秋》市橋太郎、油彩、10号館

鮮やかな色彩とモノクロームの空間を構成した表現世界は、観る人の心情にまかせて様々な表情を連想させる。

MAP 10 19

10号館と20号館

人文学部

人文学部は、キャンパスの北西地域に位置している。キャンパスのメーンロードを進み、池と緑のエリアを過ぎるころから続くゆるやかな坂道をさらに進む。木立の並木を越えると、人文学部棟の入り口にいたる。

MAP 17

噴水のある広場(第3学生ホール前)

MAP 17 (野外)

《躍動》清水多嘉示、彫刻
第3学生ホール前広場噴水(野外)

MAP 15

25号館ラウンジ風景

内部は吹き抜けの空間で、東側の出入口の壁面には天井近くまである大きな窓を設けている。シャンデリアのような装飾的な照明の放つ雰囲気が瀟洒である。一段下がった床面に、テーブルを囲む小空間があり、中庭に面した窓からも緑が映り鳥のさえずりが近くに響く。

《大地の詩》金子 亨、油彩・アクリル、25号館

女性群像の写実的な表現。25号館の1階エントランスホールの広い空間に落ち着きをもたせている。

MAP 15

窓越しに《花鏡の庭》
(25号館中庭)を眺める

現代教育学部

現代教育学部は、キャンパスの南西地域に位置している。時計塔より左方に広がる、欅並木のある芝生の広場の西奥に70号館がみえる。

MAP 24

女性像。片手を胸前に伸ばす様は歌声や詩の語らいを連想させる。70号館1階のラウンジに位置。学生たちの集いの傍らで日々の空間に融和している。

《心の旅—祈りの道》
山本眞輔、彫刻、70号館

MAP 25

暖色が主調の空間にランプをモチーフにした静物画

《ランプと貝と》
黒川節子、油彩
71号館

MAP 25

白壁の階段風景に絵画作品を設置することで彩りを添えている。階層をさりげなく表示する役割にもなっている。

《宙(そら)》下川辰彦、日本画、71号館
群青と金色の空間に夏の一夜の花、月下美人を描いている。

71号館3階階段風景

MAP 24 25

70、71、72号館の中庭

MAP 22 26

70号館と図書館をつなぐ煉瓦敷きの通路

キャンパスの四季

春

様々な種類の桜が順に開花し、
新たな出会いの場面を歓迎するように
華やぎを次々と添えていく。

①体育館・講堂(入学式)　②2号館(枝垂れ桜)
③洞雲亭(書院)庭園(淡緑の桜、御衣黄(ぎょいこう))

秋

天を突く講義棟の高層建築群も、
キャンパスが燃えるように色づくこの季節は、
一瞬の間、息を潜めるようだ。

①潜龍池(紅葉に染まる天空と水辺)　②9号館ラウンジ(窓に映る欅並木)
③洞雲亭(書院)庭園(秋の景色)

夏

池泉や噴水のせせらぎが心地良い空間のなかで、
学友との語らいが尽きることのない時を刻む。

①9号館(池越しに眺める通学風景)　②25号館より(緑陰の広場と講義棟)
③天文台 天体観測所(夕陽に浮かぶ桃園の丘)

冬

冬枯れの欅の大木が、腕を大きく伸ばしているか
のように見える頃、キャンパスの空間に、建物の直線と
自然の有機的な曲線がハーモニーを奏で始める。

①潜龍池(霧氷の朝)　②10号館南(紅梅)　③ロタンダのある広場(雪化粧)